



中北の地域社会（**COM**munity）の心の交流（**COM**munication）をめざします

Pickup!

地域教育推進連絡協議会 研修会

心を耕す出会い ～久保 弘恵さんの講演から学ぶ「心の豊かさ」～

6月26日、敷島総合文化会館にて「地域教育推進連絡協議会研修会」が開催されました。この協議会は、地域教育の充実を目的としており、教員や保育士、保護者など、子どもたちの成長を支える様々な立場の方々が参加しました。

今回の研修会では、保育士としての経験を持ち、海外での教育支援活動に取り組んできた久保 弘恵さんを講師に迎え、熱意あふれるお話を伺いました。



「何かしたい」— カンボジアへ

久保さんは保育士として働きながら子育てをしていた頃、カンボジアの内戦後の厳しい現実を受けました。テレビで、亡くなった人のそばで畑仕事をする孤児たちの姿を見て、「この子どもたちはどうやって生きていくのか」と心を動かされたそうです。

その思いが十数年後、カンボジア行きを決意させました。現地では孤児支援をはじめ、日本語教室や音楽教室を開くなど地域教育に力を注ぎました。その後、JICAのシニアボランティアとしてネパールで2年間活動し、カンボジアにも2度再訪しています。

不便さの中にある豊かさ

電気も水もない不便な生活でしたが、久保さんは「不便は不幸ではない」と語ります。現地の子どもたちは、民族の大人たちに囲まれながら、日々の暮らしの中で多くを学んでいました。そこにはいつも家族や民族の深い愛情があり、困っている人を放っておかず、互いに助け合う温かさが当たり前になっていると感じたそうです。「学歴やお金では得られない、本当の豊かさを知った」と語ってくれました。

未来へつなぐ思いを胸に

久保さんの行動力と熱のこもった語りに触れ、参加者はパワーと前向きな思いを受け取ったようでした。地域全体で子どもたちの未来に心を寄せ、心の元気と豊かさを育んでいきたい——そんな思いが、参加者の胸に残ったのではないのでしょうか。



参加者のアンケートから

- 熱量に圧倒されました。物的な豊かさとは異なる本当の意味での心の豊かさ、コミュニティの結びつきの強さの大切さを改めて感じさせられました。
- 本来、こんな心の豊かさが人には必要であり、そんな子どもたちを育てる必要があるのだと心から感じた。
- パワフルな語りと姿に感銘を受けました。本当の幸せ、本当の学びとは、を原点から見つめる機会となりました。



Pickup!

わくわく！夏の図書館

～昭和町立図書館の35周年記念事業より～



昭和町立図書館（小俣紗世 館長）は、今年で開館35周年を迎えました。その記念事業の一環として開催された夏のイベントを二つご紹介します。司書さんのアイデアが光る、図書館ならではの魅力がたっぷり詰まった、楽しいイベントでした。



夏のおはなし会

こわ〜い夜のおはなし会 & きもだめし会

7月26日の夕方、昭和町立図書館に子どもたち約30名とその保護者が集まりました。照明を落とした薄暗いホールで、ちょっぴり怖くて楽しい絵本の読み聞かせが始まり、子どもたちはドキドキしながら耳を傾けていました。

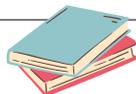
読み聞かせのあとは、いよいよ「きもだめし」の時間です。緊張して保護者の手をぎゅっと握る子もいれば、紹介された怖い本をわくわくしながら手に取って順番を待つ子もいます。

「この図書館には、本を食べて人を襲う魔物がいました。35年前にその魔物を封印したお札の力が弱まりつつあります。暗い道を進んで、最後に新しいお札を貼って図書館を守ってください！」そんなミッションを受け取った子どもたちは、保護者と一緒にドキドキする仕掛けがちりばめられた暗い館内へと出発しました。

出口では、「全然怖くなかったけど、目をつむっちゃった！」「最後まで行けた！」と話しながら、出口でもらえる司書さん手作りのバッジを誇らしげに見せてくれる子どもたちの姿がありました。

地域の図書館が、子どもたちにとって“ちょっとした冒険の場”になったおはなし会でした。

夏休み 子ども司書体験



8月6日からの3日間には子ども司書体験が行われました。1日4名の定員はすぐに埋まってしまうほどの人気イベントです。

まずはカウンター業務からスタート。来館者の本のバーコードを機械で読み込み、緊張しつつも一生懸命に業務をこなします。次は、家から持参したお気に入りの本にブックコートをかけました。大切な本を丁寧に扱います。

午後は自分の好きな本を紹介するポップ作りに挑戦。「見た人がその本を読みたくくなるようなポップを作りたい！」と意気込む子どもたちは、シールを貼ったり絵を描いたり、言葉を選びながら工夫を凝らして、素敵な作品を完成させました。これらのポップは9月に館内に展示される予定です。

体験の最後には修了証が手渡されました。「司書さんの仕事に興味を持った」「将来の職業の選択肢に入るかも」と笑顔で話してくれた子どもたち。新しい発見に満ちた、貴重な体験になったことでしょう。



中北地区地域教育フォーラムに参加しませんか

日時：令和7年10月16日（木） 13:30～16:40 会場：甲斐市敷島総合文化会館 ホール

- ・ 高校生部活動アトラクション 甲府商業高校ソングリーダー部
- ・ 講演会1 「会社をパワースポットに！育てたいのは希望と笑顔」
株式会社センティス21 代表取締役社長 保坂 剛志氏
- ・ 講演会2 「Do your best and it must be first class」
萌木の村株式会社 代表取締役社長 船木 上次氏



地方病の記憶を未来へつなぐ使命感 ～遠藤 美樹 さんの地方病の研究～

玉穂南小学校の元校長・遠藤 美樹さんは、30年にわたり「地方病」の研究と教育に力を注いできました。

かつて山梨で多くの人々を苦しめたこの病を初めて知ったとき、遠藤さんは大きな衝撃を受けたといいます。資料がほとんどない中、社会科教員の仲間の協力を得ながら手探りで教材を作り、子どもたちに地方病とその制圧の歴史を伝えてきました。また、教員としての日々の傍ら県内各地へ足を運び、資料や記録を集めて研究してきました。2023年には「地方病教育推進研究会」を立ち上げ、現在も出前授業や学習会を通じて地方病制圧の歴史を語り継ぎながら、研究を続けています。

「地方病は、悲しい歴史であるとして語られなかったからか、資料もあまり残されていません。でもこれは、山梨の人々が力を合わせて克服したという歴史なのです。」と遠藤さんは語ります。地方病終息までの道のりや、それに尽力した山梨の人々の姿を伝える遠藤さんのお話に、子どもたちは引き込まれていきます。「この歴史を次の世代に伝えなければ」そんな思いを胸に、遠藤さんは今も精力的に活動しています。



杉浦父子と地方病克服の歩み

地方病とは、県内に古くから存在した日本住血吸虫症とも呼ばれる病気です。寄生虫が肝臓に寄生することで、下腹部が大きくふくらみ、やがて命を落とす恐ろしい病でした。

昭和町の杉浦健造 博士は原因不明の病に苦しむ人々を救うため原因究明に立ち上がり、寄生虫の中間宿主であるミヤイリガイの発見に寄与しました。また、その志を継いだ息子・三郎 博士は治療法の確立に力を尽くしました。ミヤイリガイの駆除には地域の人々も協力し、多くの県民や医療関係者が一丸となって取り組んだ結果、平成8年に流行終息宣言が出され、地方病との長い闘いに終止符が打たれました。

「昭和町風土伝承館 杉浦醫院」では、杉浦親子の功績と地方病に関する資料が展示されています。昭和町では絵本も制作され、次の世代に地方病の歴史を伝えていく取り組みが進められています。

自由研究学習会



7月20日、昭和町の杉浦醫院で自由研究の学習会が開かれ、小中学生6名が参加しました。

遠藤さんが講師を務め、地方病の歴史について手作り教材を使って講義をしました。保護者も熱心に耳を傾け、メモを取っていました。

子どもたちは「もっと知りたい!」「自分でも調べたい」と意欲を見せ、保護者からは「地方病について初めて知った」「昔の人の苦労があったから今の暮らしがあるのだと知った」といった感想が寄せられ、新たな気づきを得る機会となったようでした。



過去の歩みを今、そして未来へ

「アジアの国々では、今もなおこの病に苦しむ人々がいます。そして、コロナのような未知の病が、いつかまた現れるかもしれません。それでも、かつて地方病の脅威に立ち向かい、克服した山梨の人々のように、人は知恵と力を結集して困難に立ち向かうことができる。この歴史を、今苦しんでいる人々へ、そして未来を生きる人々へ届けたい。」遠藤さんの言葉には、研究者として、そして教育者としての揺るぎない使命感が込められていました。

#中北バトン

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを寄せていただきました。



北杜市ジュニアリーダーの意欲と献身

令和7年度中北地区地域教育推進連絡協議会委員

北杜市生涯学習課青少年育成コーディネーター

矢崎 茂男 さん

北杜市ジュニアリーダー（以下「北杜JL」）の前身は1999年設立の「JL2000」です。峡北全域の中学生・高校生が会員登録して活動していました。その後北杜市教育委員会に事務局が移り、市内の生徒を対象とした組織になりました。自主企画・自主運営を基本に据えた活動を行っています。

夏休みの「夏季中学生キャンプ」では、高校生会員が中心になって参加中学生を指導します。研修で身に付けた野外活動、レク、炊事、キャンプファイヤーなどのスキルを活かして、安全で楽しく有意義なキャンプの実施に努めます。この他、小学生交流教室での指導、奉仕活動、子どもクラブ活動への協力、クリスマス会の開催など、年間を通じてメリハリのある活動を行っています。

北杜JLの会員は、市立中学校2・3年生、市立中学校出身高校生です。今年度は35人が在籍し、高校生会員が役員を務めて運営しています。高校卒業後はほとんどの会員がシニアリーダーに登録し、時間をやりくりしながら後輩JLの指導に当たってくれます。これを参考に活動方針・内容を決めて実践する、これが北杜JLの活動サイクルです。

北杜JLの事務局を務めて4年目、会員から学ぶことは少なくありません。その一つは苦勞を厭わない姿勢です。「私が担当します」の一言で事業の準備が始動する光景を、活動の中でしばしば目にします。そのたびに、中学生・高校生の意欲と献身に感心せられるのです。負担を避けようとする風潮が広がる昨今、彼らを見習わなければなりません。自戒を込めての思いです。

Pickup!

まちの音が響く教室 ～竜王東小学校の読み聞かせ活動～

絵本を読むやさしい声が響く教室。その声に引き込まれるように、子どもたちの真剣な眼差しが絵本に集まります。6月、竜王東小学校（飯塚正規 校長）では、読書週間の取り組みとして、各クラスで保護者や地域のボランティアによる読み聞かせが行われました。

「おしまい！」という言葉で物語が終わると、3年生の教室では「え～！そうだったのか～！」と驚きの声や笑い声が広がり、教室はとたんににぎやかに。担任の先生が感想を聞くと、子どもたちは次々に手を挙げて、自分の思いを元気に話していました。

読み聞かせをした保護者や地域のボランティアの方々は、子どもたちの反応も楽しみながら、ご自身も絵本の世界を楽しんでいると言います。自分が子どもの頃に好きだった本や、子どもたちが喜びそうな本を選び、笑顔で絵本を読んでいた。あるボランティアの方は、「子どもたちの真剣な姿に心を動かされる。次も参加したい。」と話してくれました。「知り合いも誘ってみよう。」と話す方もいました。過去には、オリジナルのストーリーで手作り紙芝居を披露し、子どもたちに大好評だった方もいたそうです。



5年生の教室では、甲斐市の社会教育指導員の方々が、江戸時代中期の甲斐市出身の学者、山県大弐の偉業を紙芝居で紹介しました。今年は生誕300年にあたる節目の年。子どもたちは郷土の偉人の話に興味深く耳を傾けていました。

この読み聞かせの活動は、子どもたちの心を育てるだけでなく、地域とのつながりを深める時間となっています。子どもたちの成長を地域で見守り、ともに育てていく — そんな温かい雰囲気を感じられるひとときでした。

紙面を飾ってみませんか

地域教育情報紙『中北.com』は、年6回、奇数月に発行し、中北地区500か所以上に配付しています。

学校や地域、諸団体での様々な取り組みをぜひ取材させてください。

問い合わせは右記まで、お気軽にお声がけください。

令和7年度 『中北.com』 No. 3

編集・発行 中北教育事務所

担当 花形 健一 ・ 江川 みづほ

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046 FAX 0551-23-3013